

## 東京神田に孺恋村から雪がやってきた！孺恋産の農産物・加工品も都内で販売

東京神田の高層ビル街にある小さな広場に期間限定の銀世界が現れました。それを作り出したのは本県孺恋村からはるばる届けられた約80tの大量の雪で、会場では雪と併せて孺恋村の野菜などを使った飲食、特産品も販売され、かまくらやソリなどの雪遊びとともに孺恋のおいしい味を、都内の子供たちやその親など多くの方々に堪能してもらいました。

### 第17回神田小川町雪だるまフェア

- 日時／1月20日(土)～21日(日) 10:00～16:00
- 場所／小川町広場、靖国通り(千代田区神田)
- 内容／東京神田に本県孺恋村から雪が届けられ、子供たちへ雪を使った様々な遊びや体験イベントを開催。また、靖国通り沿いには20体以上の個性的な雪だるまが並びコンテストを実施。その他、孺恋村商工会による飲食・物販コーナーが設けられた。
- 主催／小川町商光会、まえだれ会、表商会、福興会、駿河台下グリュエネ・アレー通り会
- 後援／千代田区、群馬県孺恋村、孺恋村商工会ほか

### 千代田区との姉妹提携がきっかけ 孺恋の雪が都内の子供たちを笑顔に

17年前に始まった本フェアは、小川町商光会が商店街を盛り上げるイベントとして「商店街に雪だるまを並べよう」と発案したことから始まり、雪の手配を千代田区が姉妹提携を結ぶ孺恋村に協力を求めたことがきっかけでした。

当初は雪遊びのイベントのみでしたが、10年ほど前から孺恋村商工会による飲食や物産の販売コーナーも始まり、徐々に内容が充実して現在では会場内を埋め尽くすほどの来場者(約5,000～3,000人)で大変なにぎわいとなっています。



雪が見えないほどのにぎわいとなった会場

### 特産品販売コーナーには孺恋産キャベツを使った農産加工品の販売も

会場には飲食コーナーを中心に孺恋村商工会員や農業青年組織「BRASSICA」などのボランティア総勢約90名がスタッフとして参加し、多くの来場者へ地元の農水産物を使ったメニューを提供しました。特産品販売コーナーでは、農産加工に取り組む生産者などがキャベツを使ったキムチやピクルス、ドライキャベツ等を販売し、消費者とコミュニケーションを取りながら孺恋の味を売り込みました。

また、同会場では孺恋村商工会とフィルムコミッションの立ち上げで繋がりを持った八丈島から特産品販売も行われ、あしたばの生葉やフルーツレモン、海苔など珍しい野菜や果物、地元の特産品が並んでいました。



特産品などの販売コーナー

### 商工会と農業事務所が連携し農産加工品の販売強化

孺恋村商工会の渡辺会長によると、「このイベントは17年も続いているが、現在でもにぎわいは昇り調子。孺恋の物産(業者)がこのような場で消費者から刺激を受けることでより良くなる。もっと物産コーナーの出店が増えることを願う。」と、商工会にとって本イベントは重要なものとなっています。また、地元生産者の6次産業化について、「農家は“質の高い良いもの”を持っているが売り方に困っている場合が多い。商工会ではその販売面について、商談会の開催や手本となる業界関係者との情報交換やマッチングなどを通じて支援していきたい。」としており、県農業事務所などと積極的にサポートする態勢であるとしています。



孺恋キャベツ生産者が販売する加工品